

幕末太陽伝

観賞日 2022年5月23日 上映時間 110分

【概要】

制作 1957年

監督 川島雄三

脚本 田中啓一、川島雄三、今村昌平

音楽 黛敏郎

撮影 高村倉太郎

出演 フランキー堺（居残り佐平治）、左幸子（女郎おそめ）南田洋子（女郎こはる）、
芦川いづみ（女中おひさ）、石原裕次郎（高杉晋作）、小林旭（久坂玄瑞）
二谷英明（志道間多）、金子信雄（相模屋楼主伝兵衛）、山岡久乃（伝兵衛女房お辰）



【あらすじ】

幕末（文久2年）品川宿の旅籠相模屋。佐平治は仲間と連れだって品川宿に遊びに来た。派手に飲み食いし芸者遊びをする佐平治一行。だが、彼らはカネを持ち合わせていなかった。同じ時、相模屋には高杉、久坂等長州藩の勤王の志士が同宿していた。再三の勘定請求にもうまく立ち振るまう佐平治。佐平治の魂胆は勘定を踏み倒して居残りし、品川で持病の労咳を治そうというもの。品川は海の近くで療養にはもってこいの場所。居残りした佐平治は持ち前の才覚を發揮しすっかり相模屋の人気者となり、皆から「いのさん」と呼ばれ頼りにされる。相模屋の女郎おそめとこはるの対立。おそめと金造の心中事件。おそめとこはるの修羅場に乗込み救う佐平治。同宿の長州藩士による御殿山異人館の焼討ちに協力する佐平治。佐平治はその都度受取ったお礼金も充分になったことから、ここが潮時と判断し宿を立つ。

周囲を手玉に取りたくましく時代を生きる佐平治の姿に近代日本の成長を重ね合わせる異色の時代劇。日活アクションスターが勤王の志士に扮して総出演する新生日活三周年記念作品。

【解説】

■ポイント

●川島雄三（1918年～1963年）

- ・青森県生まれ。明治大学卒業後松竹大船撮影所入所。「還ってきた男」（1944年）で監督デビュー。自ら軽佻浮薄派を名乗り、風俗映画、喜劇に才能を發揮した。労咳の主人公佐平治は病気がちで夭折した川島の分身。川島の影響を受けた映画監督は多数（今村昌平、浦山桐郎、山田洋次・・・）
- ・代表作：「洲崎パラダイス・赤信号」（1956年）、本作（1957年）

●フランキー堺（1929年～1996年）

- ・鹿児島市生まれ。慶応義塾大学卒。ジャズ・ドラマーとしてデビュー。
- ・本作で映画俳優としての地位を確立。その後、喜劇映画、テレビ・ドラマで活躍。

●評価（映画人が選ぶオールタイムベスト100）

1999年：5位、2009年：4位

■見どころ

●主役のフランキー堺の名演技

寅さんシリーズの渥美清を彷彿させるフランキーの演技。名作古典落語の世界を再現

- 公開当時にブームとなっていた太陽族を幕末の長州藩士に見立てる
- 日活アクションスターの珍しいまげ姿
- 女郎おそめ（左幸子）とこはる（南田洋子）の女同士の壮絶な大喧嘩

